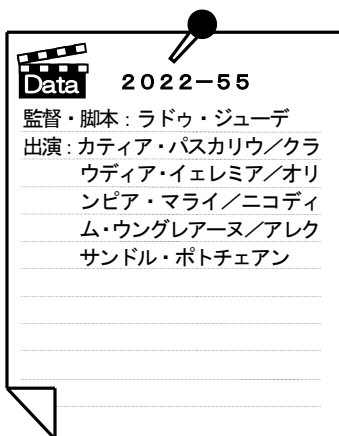




👁️👁️ みどころ

2021年の第71回ベルリン国際映画祭は、「世界は卑猥に満ちているけれど?」、「パンデミックは人間の性をあぶり出す」をテーマにした(?)、ルーマニアの鬼オラドゥ・ジュデ監督が放った本作を金熊賞に! それにしても、この長ったらしいタイトルは一体ナニ? 邦題も英題も同じ?

日本公開用の「監督<自己検閲>版」は、流出したプライベートセックスビデオの映像はないが、声はそのまま。しかして、その展開はいかに? そう思っていると、「第1部 一方通行の通り」、「第2部 逸話 兆候 奇跡の簡易版辞書」では、わかったような、わからないような・・・。

すると、「第3部 実践とほのめかし」の、エロ教師を糾弾する保護者会は“魔女裁判”に! 誰でもそう思うところだが、そこでは意外にも民主的な堂々の議論(?) が展開していくので、それに注目! その後、ジュデ監督が用意した“あっと驚く展開”は、あなた自身の目でしっかりと!

■□■このタイトルは一体ナニ? 英題も邦題と同じ! ■□■

本作はルーマニアの鬼オラドゥ・ジュデ監督が放った“類を見ない傑作”。そしてまた、2021年の第71回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞した“禁断の映画”だ。ジュデ監督の言葉によれば、「パンデミックは人間の性をあぶり出す」らしい。アメリカの第94回アカデミー賞では『コーダ あいのうた』(21年)という、“万人受け”する“お涙頂戴映画”が作品賞、助演男優賞、脚色賞の3部門を受賞したことに比べれば、好対照だ。

そんな本作のタイトルは英題が『BAD LUCK BANGING OR LOONY PORN』なら、邦題も『アンラッキー・セックスまたはイカれたポルノ』。元々は『夢遊の人々 (The Sleepwalkers)』だったが、ジュデ監督はもっととっぴいタイトルにしたかったために、

そう改めたそうだ。もっとも、ルーマニア語の原題はもっと卑猥で、本当に際どい単語が使われていたらしい。なるほど、なるほど。しかも、日本で公開された本作は、「監督自己検閲版」にもかかわらず、R-15指定だから、その「卑猥度」、「ポルノ度」は相当なもの！！！！

そう思って（期待して）いると、冒頭からスクリーンいっぱいに卑猥な言葉が流れてくる。しかし、画面はしっかり“自己検閲”されているから少し拍子抜け感も……。しかし、もしこんなプライベートセックスビデオがネット上に流出し、卑猥な言葉を吐いている女性が、ルーマニアのブカレストにある名門校の教師エミ（カティア・パスカリウ）だということが広まったら……？

■□■本作のテーマは“猥雑”だが、同時にシリアスさも！！■□■

ベルリン国際映画祭で上映された本作は“監督自己検閲版”ではないから、冒頭からあけすけな本番セックスシーンから始まったらしい。そんな本作が第71回ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞したほか、ニューヨーク・タイムズが選ぶ2021年ベスト10では、6位だった濱口竜介監督の『ドライブ・マイ・カー』より上位の、堂々第2位に選出されるなど、世界中で快進撃を続けたそうだ。なるほど、なるほど。もっとも、ジューデ監督自身も堂々と「パンデミックは人間の性をあぶり出す」「世界は卑猥に満ちている」等々の刺激的な発言を繰り返していたから、何かと“上品さ”を求める日本では、こんな映画は絶対評価されないはず。私はそう思っているが、さて……？

パンフレットにある監督インタビューで、彼は「この作品は雑な大衆紙的な下品さと、とてもシリアスなテーマが組み合わさっていると思います。」「猥雑さというのがこの作品の中心のテーマのように感じます。監督は猥雑さをどのようなものとしてとらえていますか。」との質問に対して、本作の“シリアスさ”についても誠実に回答しているので、それに注目！そう考えれば、たしかに、シェイクスピアの喜劇にも大衆的な下品さとシリアスさが同居しているし、『ハンナ・アーレント』（12年）（『シネマ32』215頁）をみても、「バカバカしいこととシリアスなことが切り離せない」ということがよくわかる。なるほど、なるほど。ジューデ監督が考えていることは奥が深そうだ。

■□■3部構成の第1部と第2部は少し退屈？■□■

本作は何と言っても、映画冒頭に示されるプライベートセックスビデオの内容が刺激的。さあ、これからの展開は如何に？そう身構えていると、スクリーン上には意外にも、「第1部 一方通行の通り」の字幕が登場し、グレーのスーツ、白いシャツ、そしてブルーの不織布マスクで、コロナ禍のブカレストの街を歩き続けるエミの姿が登場する。これは一体何のため？それが、校長の家に赴き事情を説明するためだということは、第1部のラストでやっとわかるが、ラドゥ・ジューデ監督のそんな「第1部」の演出は少し退屈だが、一体何のため？

それ以上にわからないのは、「第2部 逸話 兆候 奇跡の簡易版辞書」と題された第2

部の内容。これは、ラドゥ・ジュデ監督がチョイスした言葉のエッセイフィルムを延々と羅列していくもので、その内容はそれなりに面白いが、この演出も一体何のため？まあ今はわからなくても、そのうち徐々にわかってくるのかも・・・。

■□■1989年の東欧革命とは？その後はNATO側！■□■

第2次世界大戦後のルーマニアは、ルーマニア社会主義共和国として、ソ連邦が主導する東側＝社会主義陣営に入っていた。そして、1960～80年代にかけて、ルーマニア共産党政権の独裁的権力者として君臨したのが悪名高きニコラエ・チャウシェスクだ。1989年の東欧革命の最後を飾る「ルーマニア革命」によって権力の座を追われた彼は、ワルシャワ条約機構加盟国の国家元首の中で唯1人処刑された人物としても有名だ。

1989年は天安門事件（6月4日）、ベルリンの壁崩壊（11月10日）の年。そしてまた、日本のバブル崩壊の年としても有名だが、同時にポーランド、ハンガリーに端を発した「東欧革命」の年としても有名だ。これは、ソ連の“衛星国”になっていた東ヨーロッパ諸国（特にワルシャワ条約機構諸国）で、共産主義体制が連続的に倒された革命のこと。そのきっかけになったのは、1985年にソ連のゴルバチョフ政権が始めたペレストロイカだ。

東欧革命の進展は早く、チェコスロバキア、ハンガリー、ブルガリア、ポーランドでは国内の政権移譲が次々と穏健になされていった。しかし、ルーマニア社会主義共和国では12月16日に勃発した民主化革命の中で、12月25日にはチャウシェスク夫妻が処刑された。そして、チャウシェスク政権の崩壊後、民主化されたルーマニアでは自由選挙による議会が開かれたが、右派と左派に分かれ、国内の混乱は続いた。

他方、今年2月24日に起きたロシアによるウクライナ侵攻によって、俄然有名になったのがNATO（北大西洋条約機構）。これは、ヨーロッパと北米の30か国による「軍事同盟」だが、1949年に創設された時の原加盟国はフランス、ベルギー、オランダ等、12か国だった。その後、西ドイツ（55年）、スペイン（82年）等が加盟し、東欧革命後の1999年にはチェコ、ハンガリー、ポーランドが、そして2004年にはルーマニア等の数か国が加盟した。したがって、本作にみるコロナ禍のルーマニアは、れっきとしたNATO加盟の西側諸国の1つだ。すると、「第1部 一方通行の通り」にみる町並みが自由主義陣営の雰囲気であるのが当然なら、「第3部 実践とほのめかし」にみる保護者会での議論も当然、民主的・・・？

■□■「第3部 実践とほのめかし」は魔女裁判？いやいや！■□■

『アンラッキー・セックスまたはいぬれたポルノ』と題された本作が、“本題”に入り込むのは、第3部から。エミのプライベートセックスビデオ流出問題を保護者会で話し合うために設けられた場所は、学校の中庭。そこには既に20数名の保護者たちと校長が待ち

構えていた。第3部は「実践とほのめかし」と題されているが、それってどういう意味？

ルーマニアの名門校における、エミのプライベートセックスビデオ流出問題を討議するための保護者会は、どう考えても「魔女裁判」。私にはそう思えたが、意外にもその展開は民主的・・・？少なくとも、校長の民主的かつ公平な議事進行のおかげで、中国で1967～77年まで10年間も吹き荒れた“文化大革命”における、紅衛兵による知識人の糾弾集会とは全く違う風景になっている。もっとも、ビデオの上映から始まった保護者会における男性の目は一様に欲望でギラギラ・・・？

ビデオの上映終了後に次々と飛び出す発言は、すぐに「右にならえ」方式で意見が一致する日本式とは大違いで、正論を吐くものから極端な差別主義者までさまざま。さらに、軍服を着た男や歴史修正主義者等、各人各様で、まさに“百花繚乱”。議論は尽きることがなかったが、校長は彼らの意見をどう集約するの？そして、エミの処分をどう結論づけるの？

■□■エミは残留？or 追放？監督の遊び心（？）にビックリ！■□■

世の中にかかる“不祥事”は多い。そして、マスコミやSNSが発達した今の日本では、不祥事が起きるとすぐに謝罪会見が開かれ、ひたすら謝罪。場合によれば、土下座する風景すら見受けられる。しかし、「第3部 実践とほのめかし」に見るエミの姿は全然それとは違うもの。つまり、ビデオの映像や声が自分であることは認めたものの、それはあくまでプライベートなものであり、教育者としての自分の教育への思いや理念にはいささかも問題がないことを堂々と主張（反論）していくので、それに注目！校長も教育者としてのエミの優秀さについて再三援護し、ややもすれば“セックス談議”や一方的な“エロ教師糾弾”にずれていく議論を何度も引き戻す努力を重ねていた。

本日の保護者会の目的は何？それは、プライベートセックスビデオ流出事件を起こしたエミを教師として残留させるの？それとも追放するの？を決めること。そのためのさまざまな議論は出尽くした、と判断した校長は、それを参加者の投票によって決めることになるほど、なるほど。

「裁判モノ」で最高に緊張するのは、最後に陪審員たちがいかなる評決を下すかだが、さて本作に見る保護者たちの評決は？それについてジューデ監督は、あっと驚く遊び心（？）で3つのパターンを用意しているので、それはあなたの目でしっかりと！

2022（令和4）年5月6日記